

食

食べ物はどうつくられていたのだろうか。そんな素朴な疑問が、金丸弘美さんを全国行脚に駆り立てる。

全国二〇〇カ所以上の食材づくりの現場を訪れた。そして、わかったのだ。「本物の食べ物には、うまい」「食べる人を元気にする力がある」ということを。「たとえば、海水を汲み上げ、じっくりと作った塩。その塩を調理に使えば、野菜と魚といった素材のうま味が引き出され、料理がとておいしくなる。そればかりか、人間に必要な微量ミネラルをも、塩から摂取することができる。このように、料理も人も元気にするのが、本物の力」

「からだがよろこぶ自然食2002」(学習研究社)は、金丸さんが、沖縄から北海道まで全国、〇〇カ所以上、実際に現地へ確かめた本物づくりをする人たちの優れた食材を紹介するもので、すべて取寄せが可能、その連絡先も明記してある。写真がオールカラーでとてもキレイだ。米・麵、野菜、果実、肉類・乳製品、豆腐・納豆・漬物ほか、魚介類、調味料、

井狩春男の これは売れる!



『からだがよろこぶ自然食2002』 金丸弘美 監修 学習研究社 本体価格1600円 5月29日発売予定	85 Point
『太っ腹対談』 東海林さだお、椎名 誠 講談社 本体予価1300円 5月21日発売予定	85 Point
『88歳、8万キロを目指して 自転車親善にかけた夢』 スタン・ジャクソン 清流出版 本体予価1500円 5月下旬発売予定	80 Point
『痛快! がん快癒学』 渡邊 寛 集英社インターナショナル 発売・集英社 本体予価1800円 5月24日発売予定	80 Point
『ずぶぬれて犬ころ』 住宅顕信/松林誠 版画 中央公論新社 本体予価1300円 5月25日発売予定	75 Point

茶・酒・菓子などに分けて紹介。狂牛病騒動のさなかで牛肉の売上げが伸びたという、三重県の「モクモク手づくりファーム」のハムやウインナーは、じつは小生も食べている。もちろん、無添加。信じられないくらいまである。それもそのはず、ハムの本場ドイツで「食肉加工技術コンテスト」のハム・ソーセージ

国際品質検査部門にハムを。〇点出品し、五つの金賞と、一つの銅賞を受賞。一つでも賞を取るのがむずかしいコンテストだ。沖縄の「粟国の塩」、鹿児島田納豆、埼玉の「おぼろ豆腐」、宮崎の「黒米そうめん」、黄身がつまめる福岡「緑の農園」の卵、発酵途中の生ワイン、神奈

川「井筒ワイン」のこり生ワイン……。食は命の源。食材が本物ばかりなら、文句はない。定番の「食」と、ここまで充実した本は「初めて」という二点で、大売れする。「今まで知らなかった味」に会える。85点。★「大胆かつ遠慮がち、いじましく時には太っ腹に絶妙の間合

いで進む対談の空間が楽しめる。食の仕掛人たちや美人女将がゲストの「太っ腹対談」(講談社)。「食」を扱っているのはいいのだが、対談集というところが足を引っ張る。85点。★英同生まれのスタン・ジャクソンさんは、八八歳。自転車冒險旅行で、八万キロを目指す。きっかけは、ガンにかかってじく

した愛妻ジョアンさんへの悲しみを癒すためだったが、今は、「老人は社会のお荷物ではない」として、「人種、宗教、国境を超え、地球家族」を訴える。オーストラリアから英国までユーラシア大陸横断に始まり、北米縦断などを経て、稚内から鹿児島までの日本縦断は、一九八一年と二〇〇二年三四月の二回も走破している。二〇〇三年(八九歳時)には、命の危険も省みず、世界の紛争地帯を訪ねる旅を予定していて、「地球が一つである」ことを訴えたいとしている。

★「日本人の二人に一人はがんになる」。この身近な病気も今では治るようになった。えっ、治る? 「痛快! がん快癒学」(集英社インターナショナル)は、三笠宮親王殿下の食道ガンを手術した名医が、ガンの真の姿と、快癒するための最新治療法を告いでいる。「快癒」で売れる。80点。★「ずぶぬれて犬ころ」(中央公論新社)は、住宅顕信の白山律俳句に、版画家・松林誠の新作を組み合わせたもの。初めてというイメージで売れる。75点。

新刊フラッシュ

- 『完全版ベイトフ対策』草庵厚子 角川書店 本体価格一四〇〇円
お上に頼る時代は終わった。自分の資産は自分で守る習慣を身につけよう。サラリーマン、OL、そして主婦にもうってつけの、日本のベイトフについてよくわかるガイド本。素朴な疑問に答えるQ&Aから、ベイトフの歴史、預金の増やし方まで。
- 『大丈夫か あなたの会社のIT投資』大和田 崇、大槻 繁 NIT出版 本体価格一九〇〇円
こう聞かれ、自信を持って「ハイ」と言える会社は少ないだろう。IT投資が経営にどんな効果をもたらしているか、定量的に測定していないからだ。まずは企業価値の増大戦略ありきで、そのうえでIT投資である。順番を間違えてはいけない。
- 『小泉改革VS.田中角栄』村野まさよし 新潮社 本体価格一三〇〇円
田中角栄元総理がつくった二〇〇もの法律は、公共工事を生み出し、今も続く既得権の源となり、国と地方に多大な借入金を残してしまっただけで、今や真の遺産と化した「角栄法」を破壊することこそが、小泉改革の本質ではなかったのか。
- 『テレビ局がつぶれる日』脇浜紀子 東洋経済新報社 本体価格一五〇〇円
女子アナウンサーが書いた本、というだけでミスターハーパーが書いた本、というだけで硬派な本。読売テレビで朝のニュースを読んでいる著者は、危機感のない職場の実態を赤裸々に描く。こんなことで生き残れるのか。
- 『サッカーの祭典に集まった世界32カ国の仲間たち』風樹 茂/片岡樹里・絵 青春出版社 本体価格九五〇円
「サッカーは世界の言葉」と著者が言うように、ワールドカップほど世界中を同時に興奮させるスポーツはない。これは、その祭典に参加する三二カ国のプロフィールを短い文と絵で綴る、いわばおとなの絵本。